

# 岐阜県経済の現状



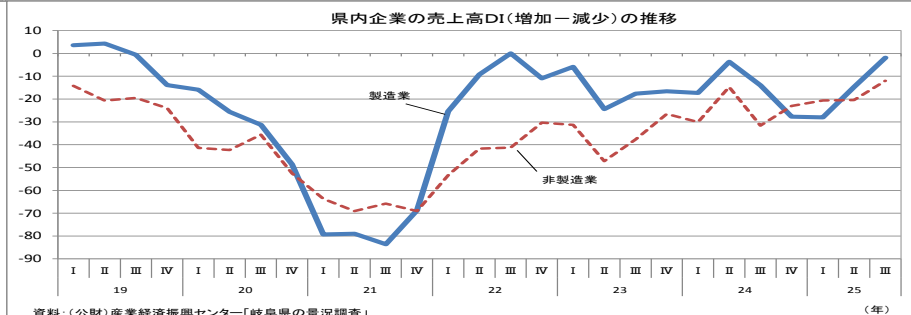
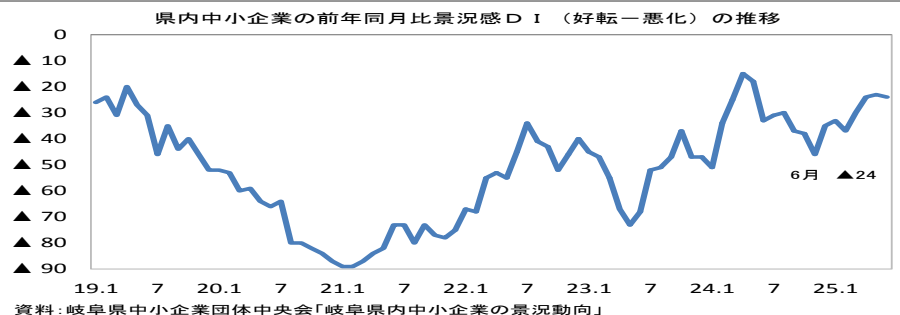
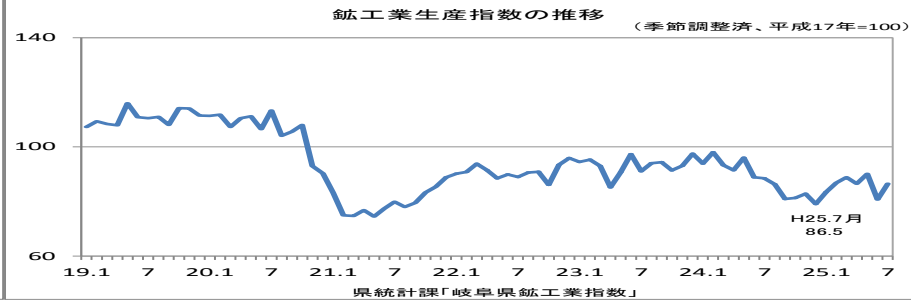
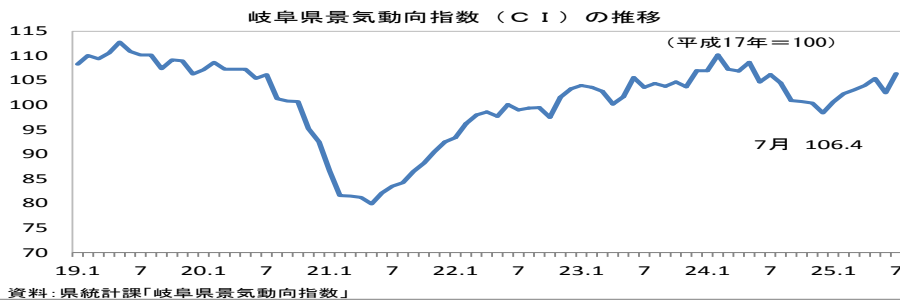
平成25年9月分  
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは9月24日～26日を中心に実施し、10月7日に作成。

# 景気動向・製造業

○7月の景気動向指数(CI、一致指数)は106.4と前月から3.9ポイント上昇。県内中小企業の6月の景況感は、1ポイントの悪化。

○7月の鉱工業生産指数は、7.2%増の86.5となった。製造業及び非製造業の売上高は増加。



## 現場の動き

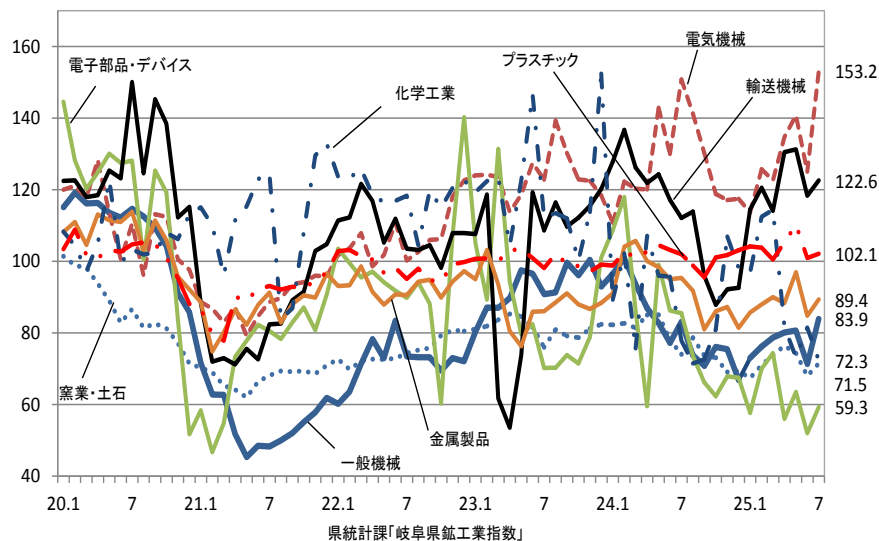
- ◆受注量は、先月から今月にかけて過去最高となり、売上げも伸びている。
- ◆社内の雰囲気もやや活気がもどりつつある。
- ◆トヨタ全体の生産量が伸びており、引き続き好調な状況が続いている。(以上、輸送用機械)
- ◆受注は減少して来ている。他の中小企業も同じ状況のようだ。
- ◆受注量は、対前年同月比30%、売上額は対前年同月比20%それぞれ増加。前年に比べ国内取引が回復傾向にある。(以上、生産用機械)
- ◆売上げは、対前年比・前月比では横ばい。(はん用機械)
- ◆同業他社との価格競争等が熾烈化し、販売個数は伸びているものの売上高に結びつかない状況。
- ◆先月と比較して、売り上げが15.6%減少した。
- ◆引き続き好調な状況で、10月も同程度の出荷量を見込んでいる。(以上、プラスチック)

# 製造業-2(業種別)

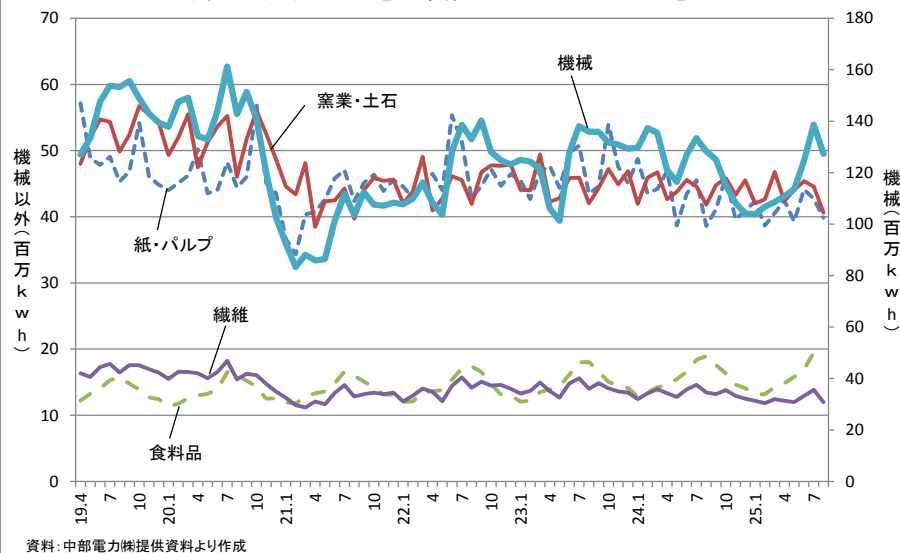
○7月の生産指数は、化学工業で低下したものの、  
 輸送機械、電気機械、プラスチックなど多くの産  
 業で上昇した。

○8月の工場向け販売電力量は、紙・パルプで  
 前年を上回ったが、窯業・土石、機械で前年を  
 下回った。

主な産業の生産指数 (季節調整済、平成17年=100)



業種別 産業用大口電力(契約500kw以上)の販売電力量



## 現場の動き

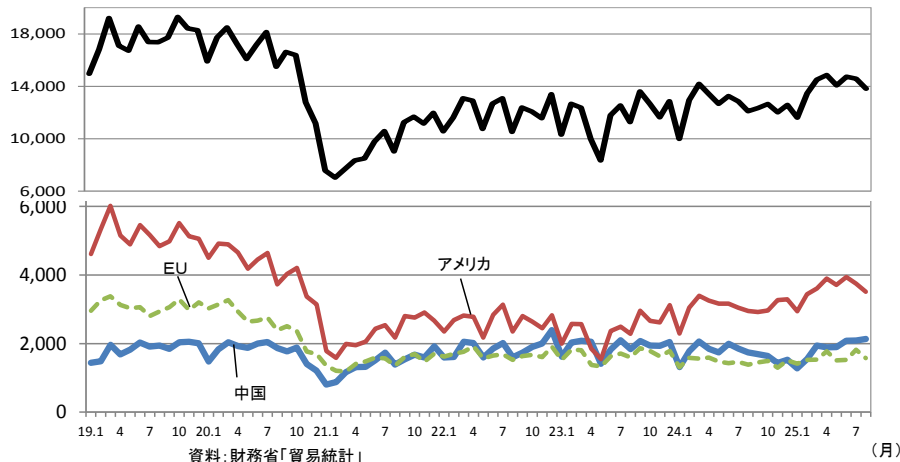
- ◆夏はそもそも陶磁器は売れないシーズンであるため、景況は良くない。
- ◆当社の売り上げもピーク時の1/3にまで落ち込んでいるが、ピーク時に戻るとは難しい。売り上げを維持していくので精いっぱい。(以上、陶磁器)
- ◆5月以降、大きな動きはなく例年通りの売り上げ。(刃物)
- ◆景気は例年のこの時期に比べて良くない。(紙)
- ◆8月は前年同期比プラス約15%、9月はプラス約20%。プラスの要因は様々あると思うが、「新製品が市場にマッチしている」、「消費者の本物志向の高まり」、「消費税増税前の駆け込み」等が考えられる。
- ◆9月は、8月に引き続き忙しい。消費税増税に伴う駆け込み需要も重なっている。(以上、木工)

# 輸出

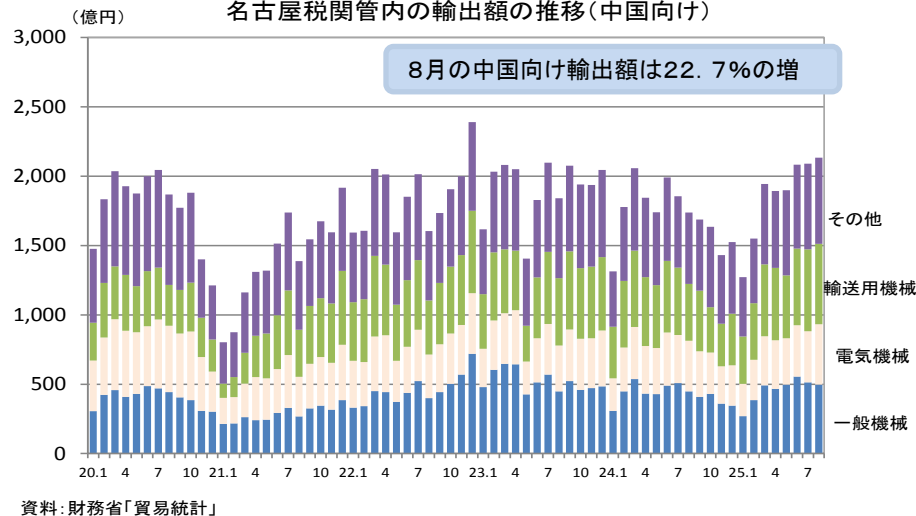
○8月の輸出額(名古屋税関管内)は、13,825億円と前年同月比14.3%増となった。

○中国向け輸出は一般機械、輸送用機械等の全ての産業が増加したことで前年同月比22.7%増と5カ月連続の増加となった。アメリカ向け輸出は一般機械が減少したものの、電気機械、輸送用機械等が増加したことで前年同月比19.0%増となり、直近20カ月中19カ月で前年を上回っている。

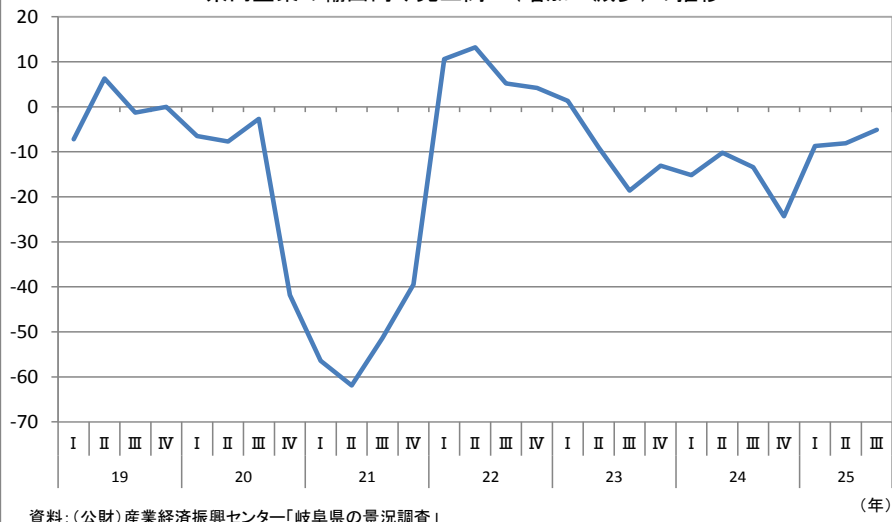
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(全産業)



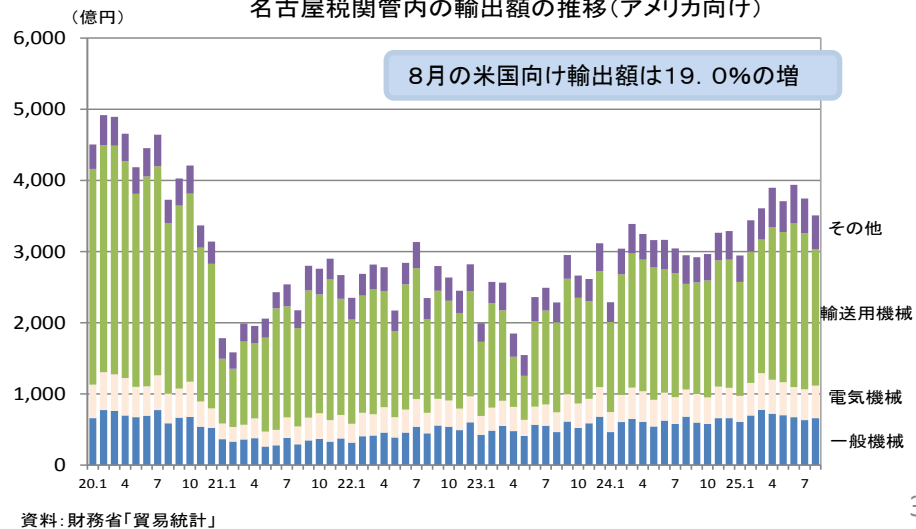
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(中国向け)



県内企業の輸出向け売上高DI(増加-減少)の推移



(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(アメリカ向け)

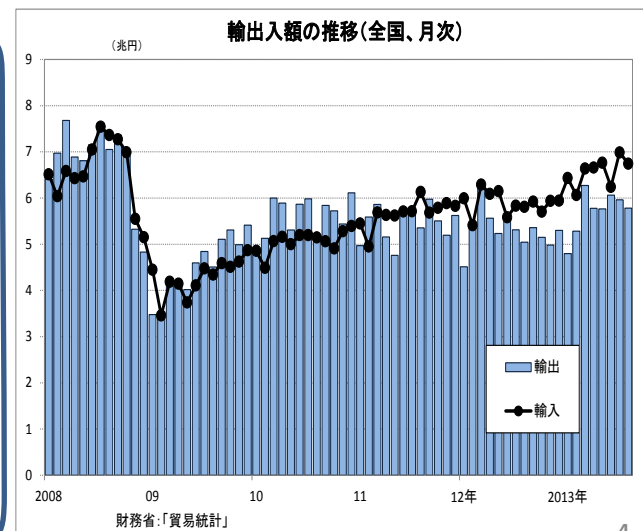


## 消費税増税の影響について

- ◆下期には消費税増税の駆け込み需要はある程度見込んでいるが、その後の落ち込みも想定している。
- ◆消費税については、増税前の自動車業者の作り込みの関係で受注は好調であるが、その後の反動が心配される。  
(以上、輸送用機械)
- ◆景気の先行きが未だ不透明な時期に増税することには抵抗があるが、増税が決まれば転嫁していくことになる。  
(電気機械)
- ◆増税前の駆け込み受注と来年4月以降のその反動での受注減を懸念。(以上、生産用機械)
- ◆消費税増税は致し方ないが、具体的には対応策をまだ検討していない。転嫁せざるを得ないと思う。(はん用機械)
- ◆消費税増税はやむを得ないが、景気対策を行わなければならないと思う。(金属製品)
- ◆増税前の駆け込み需要はあると想定しているが、増税後の出荷量の減少を懸念している。(プラスチック)
- ◆消費税増税の影響は大きく受けると予想している。増税前の駆け込み需要は、少しはあるかもしれないが、増税後は需要が冷え込むことを懸念している。(アパレル)
- ◆どれだけ優遇税制をしたところで、消費マインドは必ず落ち込む。来年4月の増税予定ではかなり厳しいことになると思う。(陶磁器)
- ◆消費税については、消費者の買い控えへの影響が懸念されるとともに、切り替えの際の手間への負担が非常に大きい。  
(食品製造販売)
- ◆最近の動きとして顕著なのは、やはり個人向け住宅ローンである。消費税増税も1つの要因となり、顕著に需要を感じる。  
(金融機関)

## アベノミクスの効果・影響について

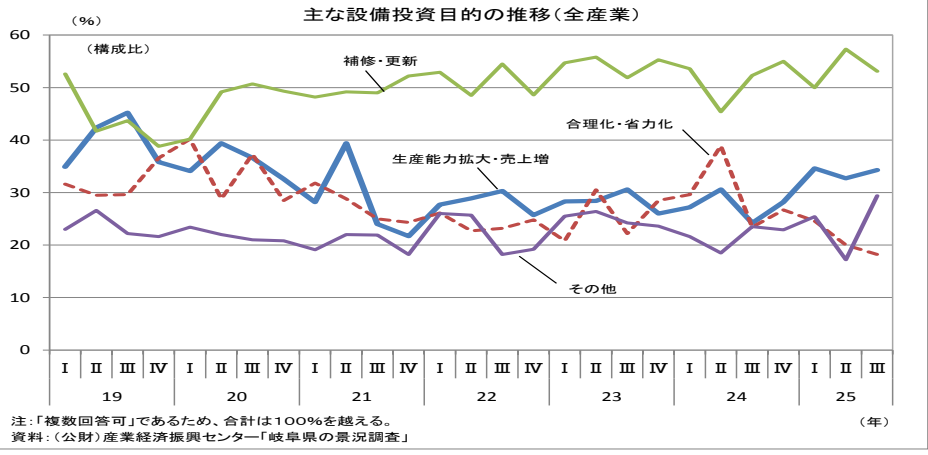
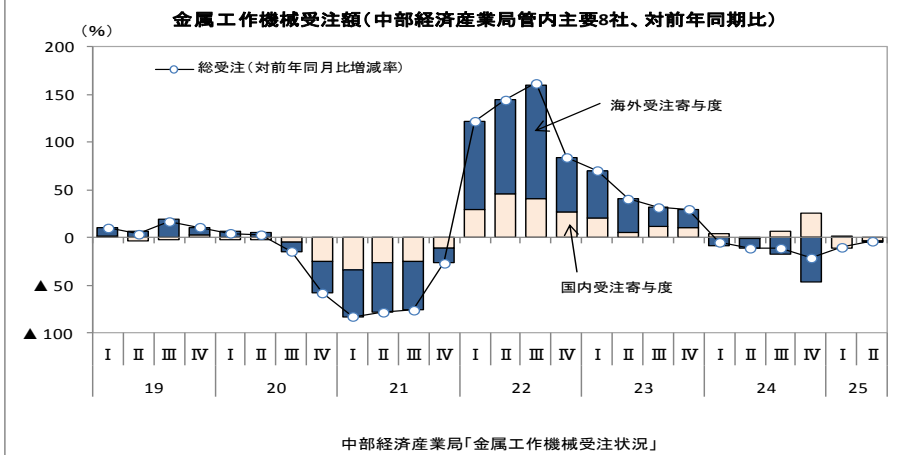
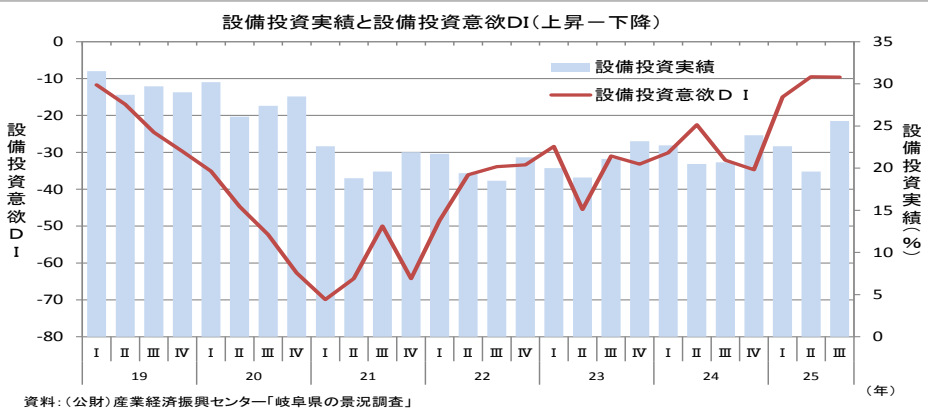
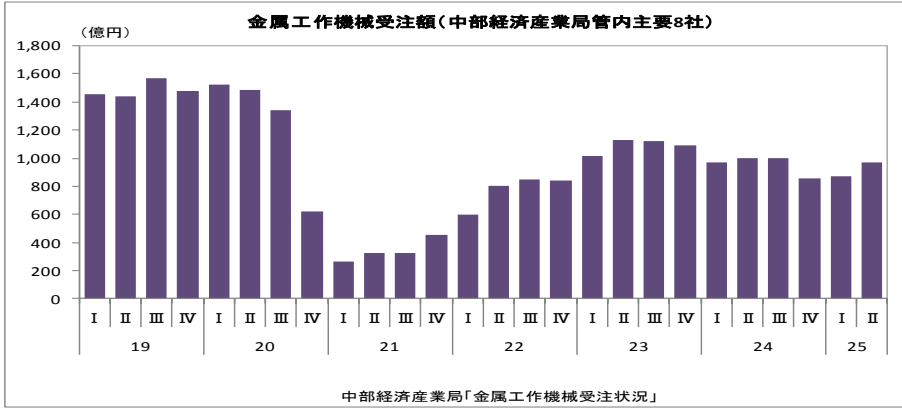
- ◆景気が上向きになっていると感じられる。(輸送用機械)
- ◆アベノミクスの好影響はない。(電気機械)
- ◆アベノミクスの効果は限定されている。
- ◆マインド的には良い方向には働いている。(以上、生産用機械)
- ◆具体的にはないが、気分的には良い影響を及ぼしている。(金属製品)
- ◆アベノミクスの影響で賃金が上昇すれば販売も上向くかもしれないが、その実感はない。(アパレル)
- ◆アベノミクスの効果についても特に感じていない。(紙)
- ◆アベノミクスの効果・影響については、よくわからない。(食品製造販売)
- ◆景気の上向きや株高の効果が、管内の中小企業者にまで下りてきている実感は今のところない。(金融機関)



# 設備投資

- 生産用機械の受注額は、国内受注が減少したことで、6期連続のマイナスとなった。
- 設備投資意欲DIは改善している。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加した。



## 現場の動き

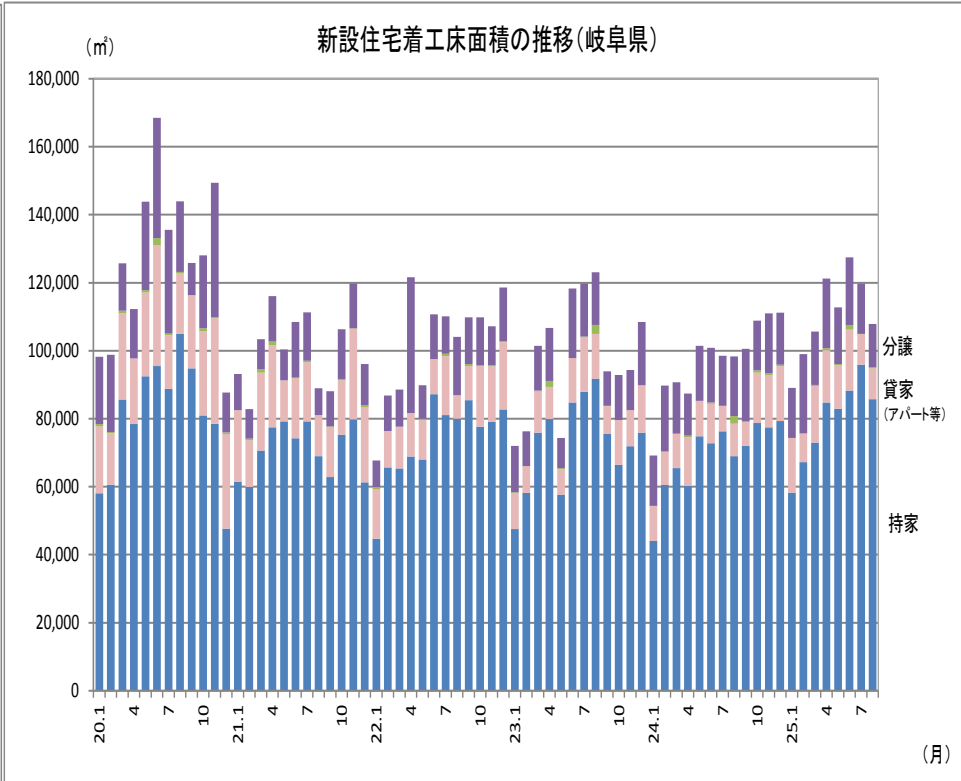
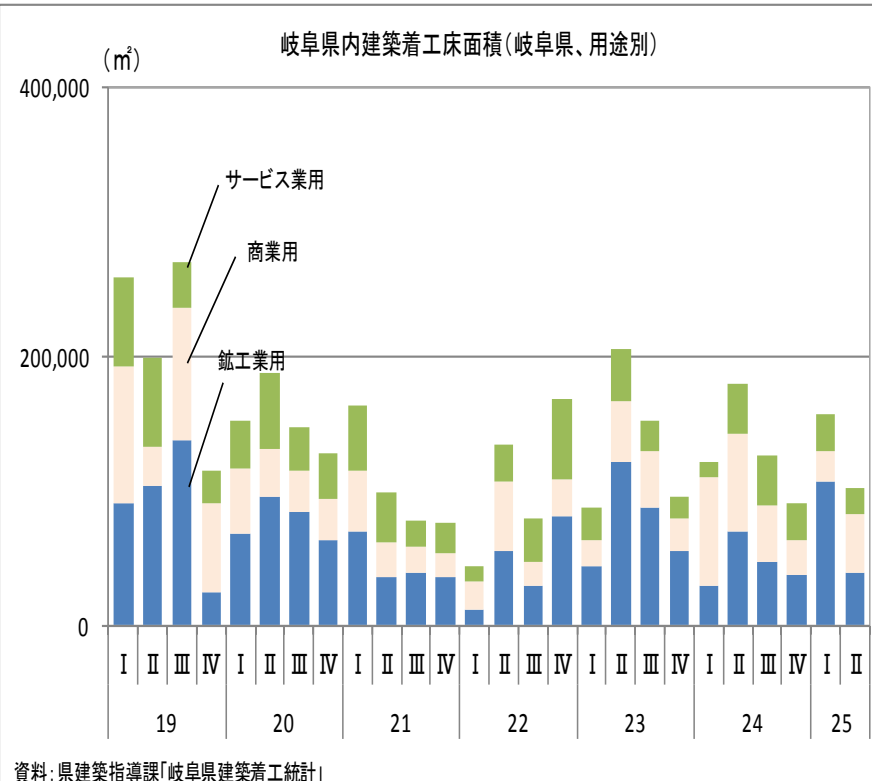
- ◆飲料充填機、袋詰め装置などの設備投資も一段落した。(食料品製造)
- ◆今後景気は上向いてくると期待はしているが、先行きが見通せない部分もあり、設備投資や人材の確保は慎重にならざるを得ない。(製材所)
- ◆ここ半年くらいのスパンで見た場合、小さいながらも設備の動きが出てきたように感じる。(金融機関)



# 住宅・建築投資

○25年4-6月期の建築着工は、全ての用途で減少したことにより、全体では前年同期比43.4%の減となった。

○8月の住宅着工は、分譲、貸家では減少したが、持家が増加したことにより、全体では前年同月比9.7%の増と12カ月連続の増加となった。

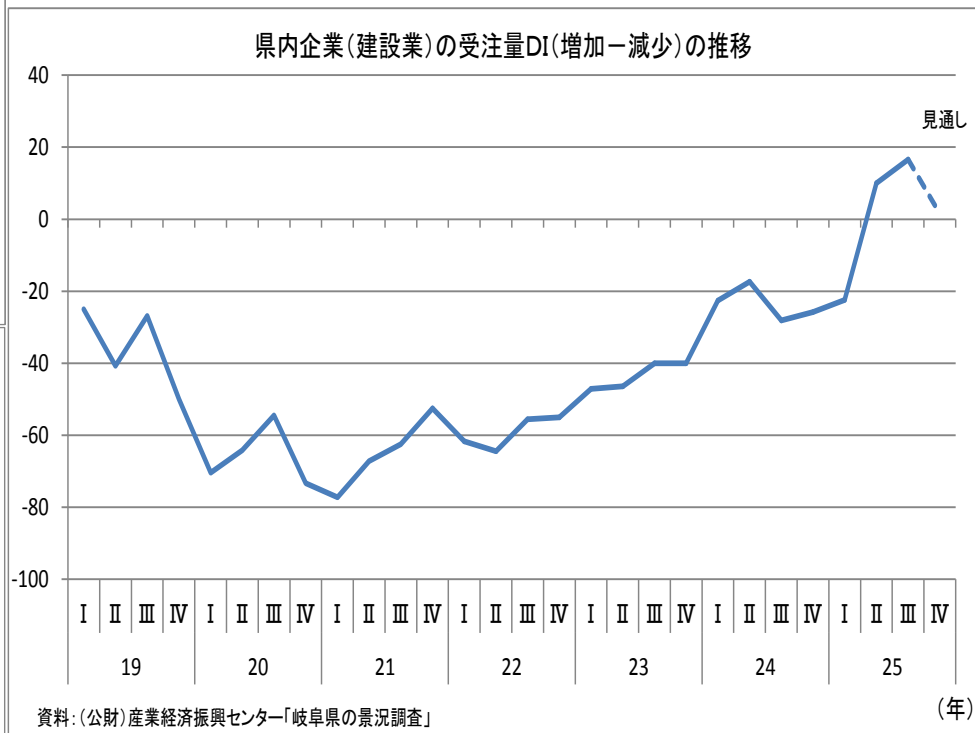
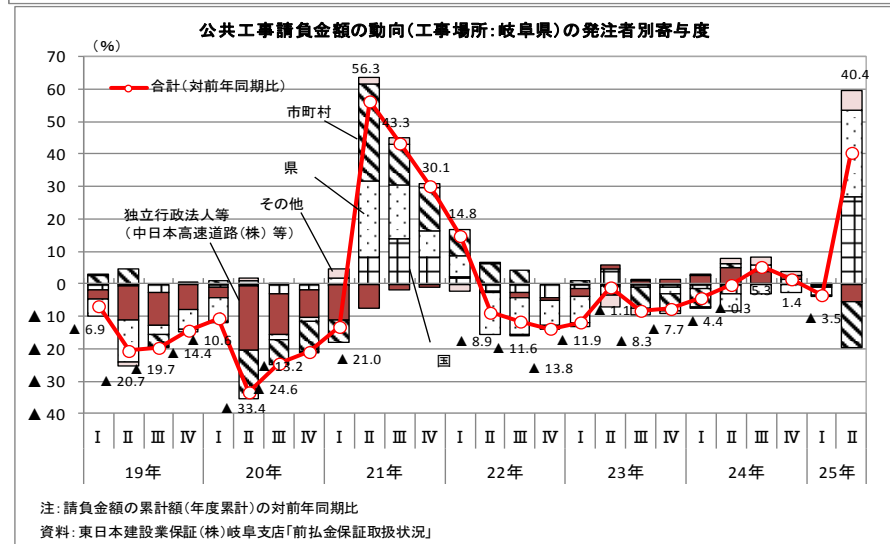
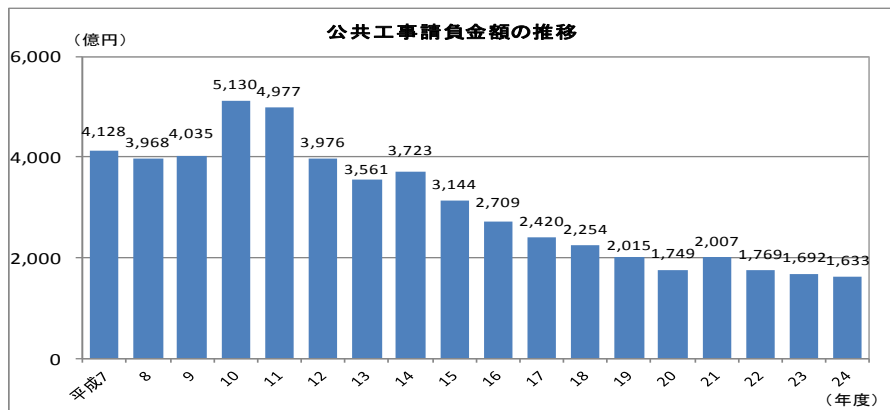


## 現場の動き

- ◆木材利用ポイント制度が始まったことや、消費税増税前の駆け込み契約で大手住宅メーカーは受注が増えているはずだが、受注が増えているようには見えてない。(木材市場)
- ◆売上は安定している。(対前年度1.1~1.2倍程度)広葉樹ドアの販売が順調に推移しており、今年いっぱいには伸びていくと見ている。
- ◆製品の動きは良い状況は続いているが、価格は相変わらず上がらない。(以上、製材所)

# 公共工事

○24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。  
 ○25年4-6月期の公共工事請負金額は、国及び県からの発注が大幅に増加したため、対前年同期比40.4%増と2期ぶりに前年同期の水準を上回った。



## 現場の動き

◆各社多少ばらつきはあるが、全体的には仕事量が増え忙しくなっている状況である。技術者・作業員の確保や資材費の高騰に各社とも苦慮している。(業界団体)

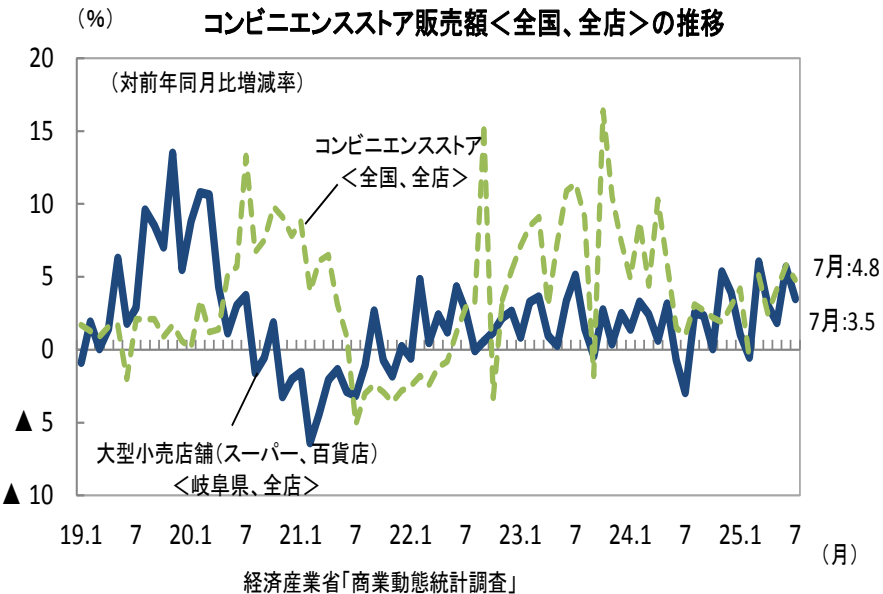


# 個人消費(流通・小売)

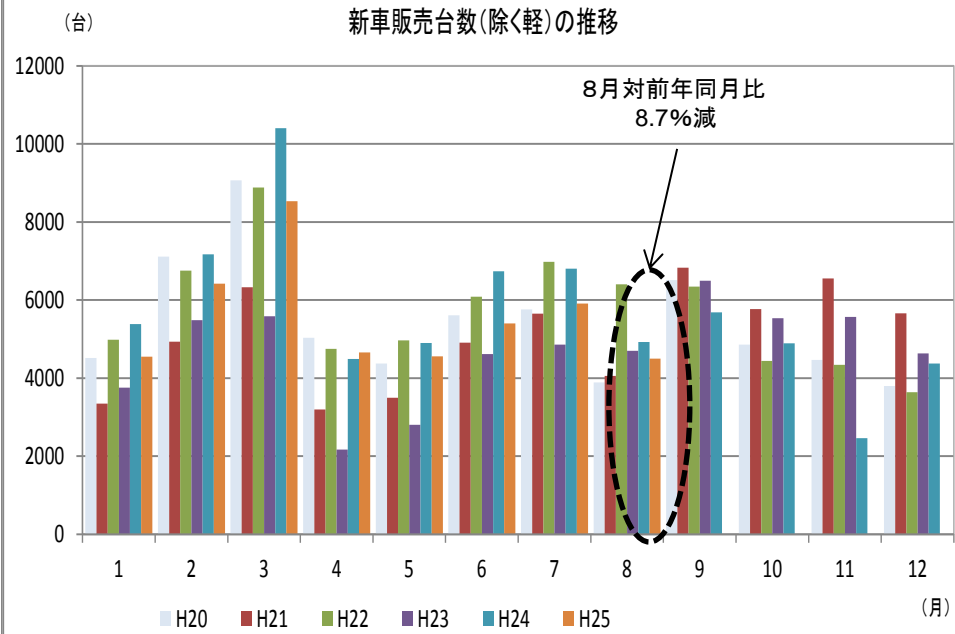
○7月の大型小売店販売額は、対前年同月比3.5%増と5カ月連続の増加となった。

○8月の自動車販売は前年同期比8.7%減と4カ月連続の減少となった。

大型小売店舗販売額<岐阜県、全店>及び  
コンビニエンスストア販売額<全国、全店>の推移



新車販売台数(除く軽)の推移



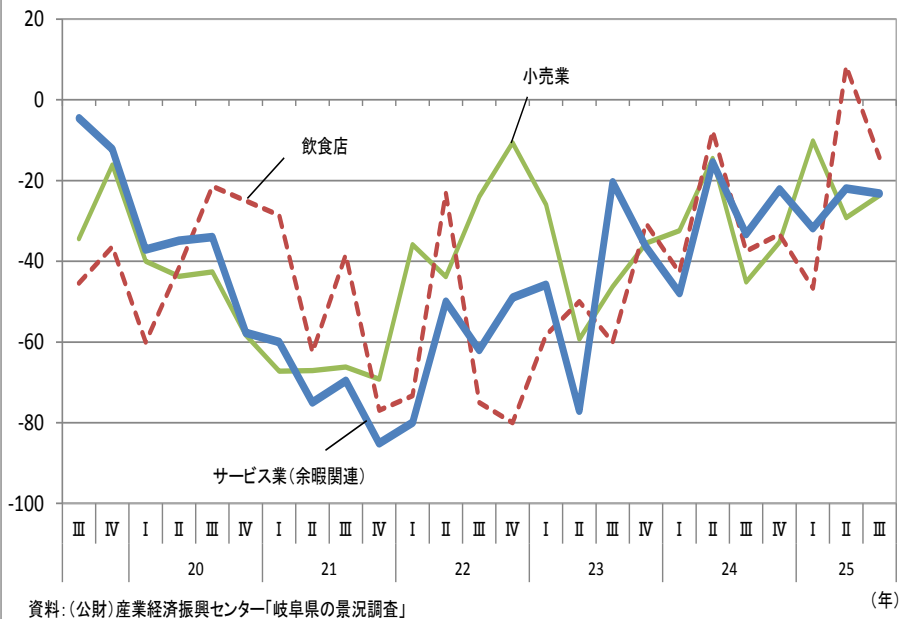
## 現場の動き

- ◆食料品は引き続き順調に推移。衣料品は残暑により秋物の動きが今ひとつも、イベント・セールにより売り上げを伸ばした店舗もあった。(大型小売店)
- ◆9月の売り上げも順調に推移。トレッキング関連が引き続き堅調。トレッキングは季節・段階ごとに商品需要(夏物・秋冬物など)があり、継続的な売り上げが期待できる。(スポーツ用品)
- ◆9月の売り上げは概ね前年並み。冷蔵庫や洗濯機が前年比マイナス10%と苦戦。その一方で、エアコンやパソコンの調子が比較的よかった。(家電)
- ◆昨年と比べると売り上げは悪い。昨年度は国体関係の行事があったこともあるかもしれないが、今月は全般的に悪い印象。(コンビニ)

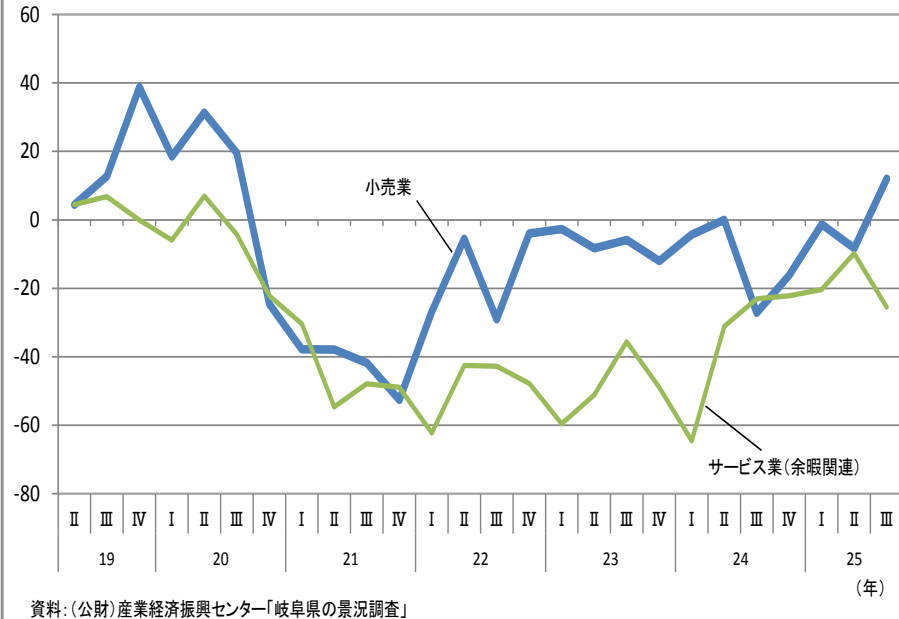
## 個人消費(流通・小売)－2

○平成25年Ⅲ四半期の小売業については売上高、販売価格ともに増加。サービス業については売上高、販売価格ともに減少。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



### 現場の動き

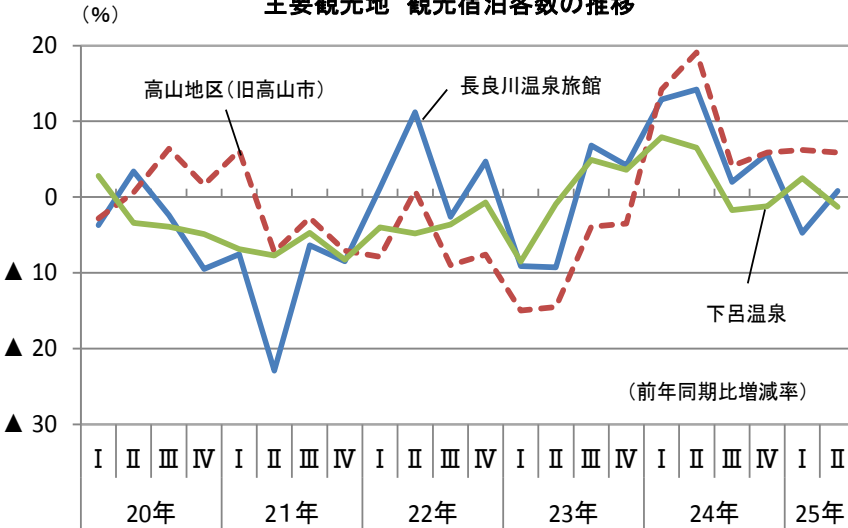
- ◆店舗での売り上げは90%くらいだが、商店街全体での売り上げがあり、合計するとほぼ前年並み。大垣市商連が発行しているプレミアム商品券での売り上げが貢献している。(大垣市商店街)
- ◆ジュラシックアーケードやお化け屋敷がテレビ・新聞で報道され、認知度が上がり、柳ヶ瀬を訪れる人が増えた。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆9月は3連休が2回あり、前半は台風の影響で観光客に影響があったが、後半の連休は大変賑わった。(高山市商店街)
- ◆前年同月比で95%。朝晩は涼しくなったが、昼間の残暑が厳しく秋物が動かない。(多治見市商店街)
- ◆売り上げ、客数ともに前年同月比より若干減となった。(アクティブG)

# 観光

○平成25年第Ⅱ四半期の宿泊客数は、長良川温泉旅館が前年同月比0.8%、高山地区(旧高山市)が5.9%増加したが、下呂温泉が1.3%減少した。

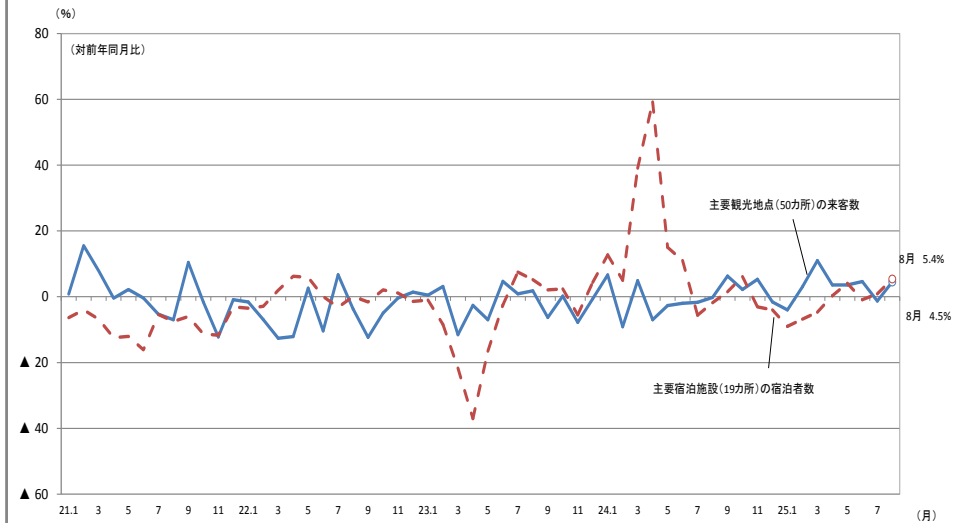
○主要観光地における8月の観光客数は、前年同月比4.5%増と2ヶ月ぶりに前年を上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は同5.4%増と2ヶ月連続で前年を上回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



県統計課「グラフで見る岐阜県経済」

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



※県観光課調べ

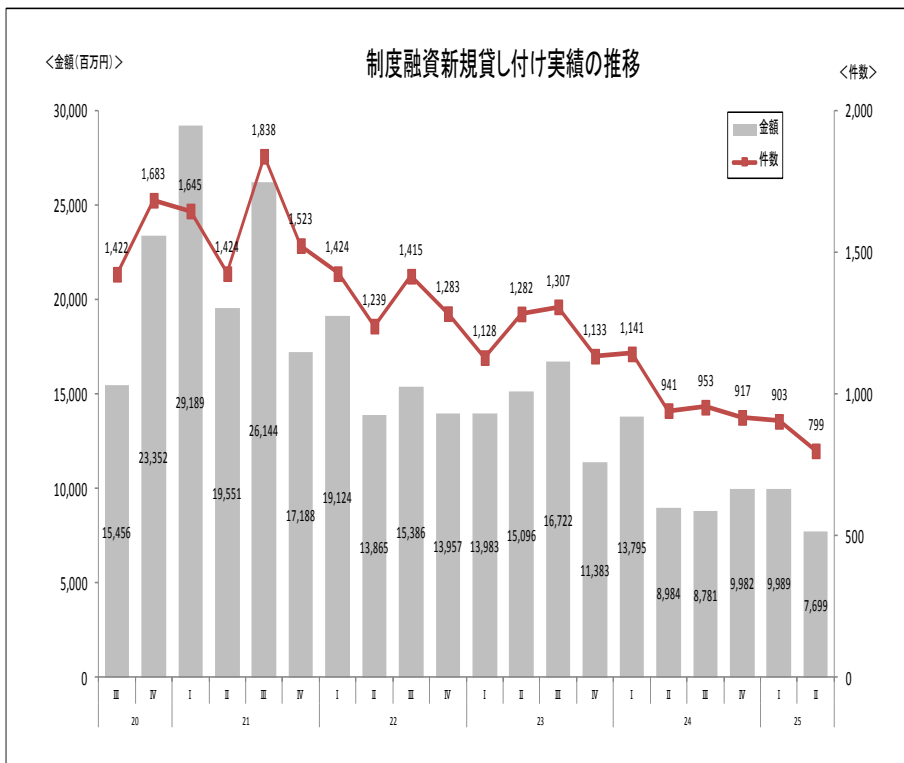
## 現場の動き

- ◆施設によってバラツキはあるものの、3連休が2週にわたり続いたことから総じて前年をやや上回る程度の水準を確保できている模様。インバウンドは引き続き台湾やアセアンなどアジアの幅広い国・地域で好調な動きが見られる。(宿泊施設の総括)
- ◆9月のインターネット予約は2週にわたる3連休を中心に好調で前年の水準を2割程度上回る見込み。
- ◆連休中はインターネット・旅行代理店経由の個人予約が好調で満室となった。(以上、岐阜市内の宿泊施設)
- ◆遠方からの団体客が減少した一方、個人客が連休に集中したことに加え、平日も前年並みを確保。(高山市内の宿泊施設)
- ◆前半はインターネット予約の個人が減少気味だったが、後半の連休に盛り返した。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドは週末に予約できない団体客が平日に流れる、多い日には6グループを受け入れた。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドは例年少ない時期にも関わらず増加傾向で推移しており好調。(高山市内の宿泊施設)
- ◆マレーシア、タイなど東南アジアが増加。 ◆台湾からのツアーが増加し、前年並みを確保。(以上、下呂市内の宿泊施設)

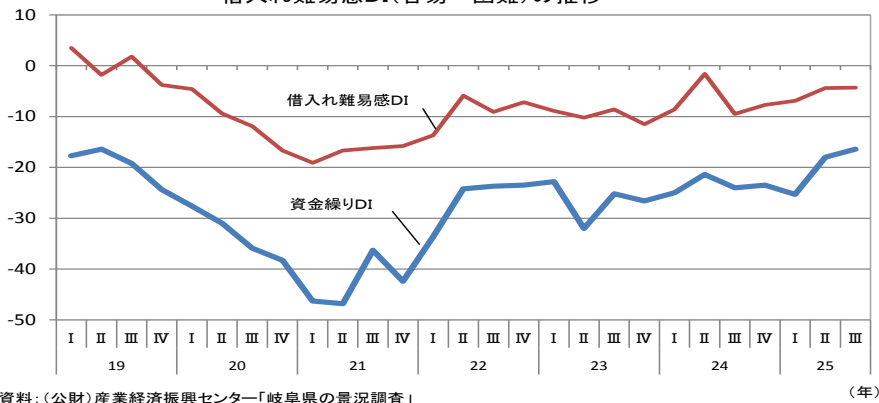
# 資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いている。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

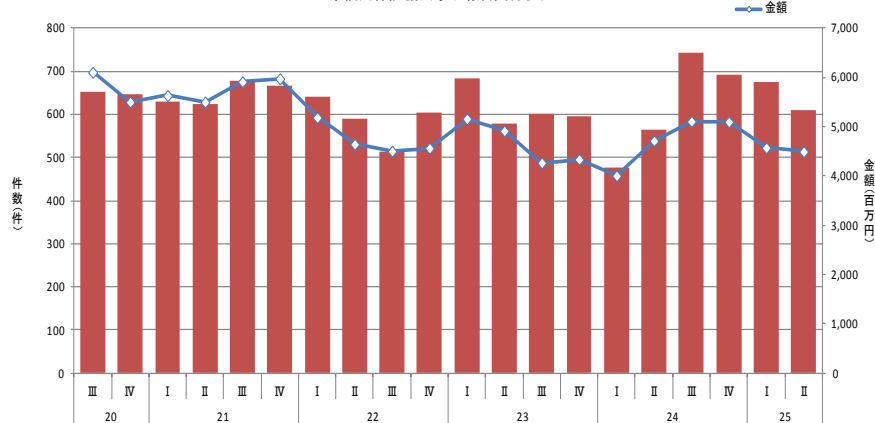
## <新規融資実績>



県内企業の資金繰りDI(好転-悪化)及び借入れ難易感DI(容易-困難)の推移



県信用保証協会事故報告受付状況



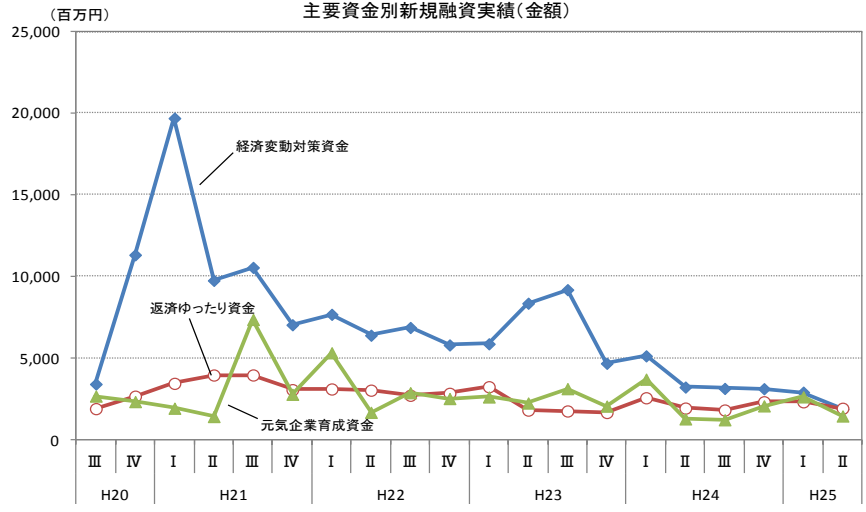
## 現場の動き

- ◆これまでどおりで、状況は変わっていない。設備は低調という感触。
- ◆資金需要に変化はない。わずかに出てきたかなと思うところもあるが、トレンドとして言うにはまだ弱い。
- ◆資金需要について、これまでどおり低調で大きな変化はない。(以上、金融機関)

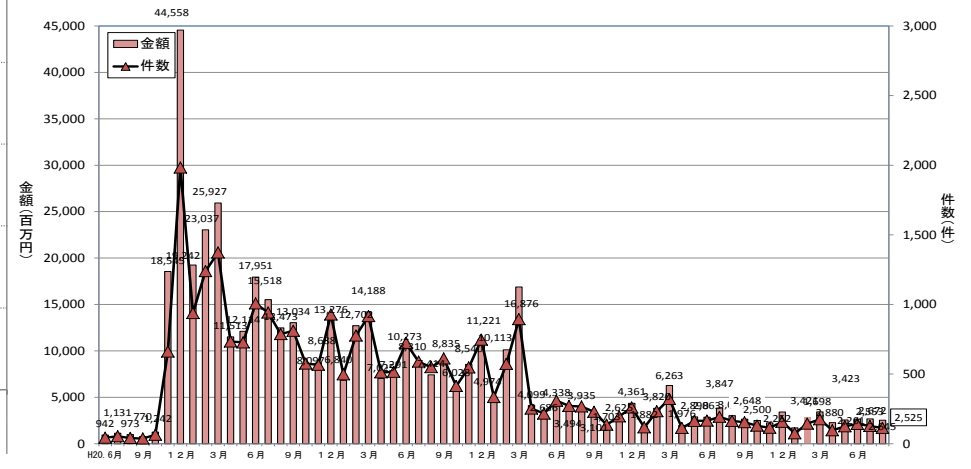
# 資金繰り-2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。

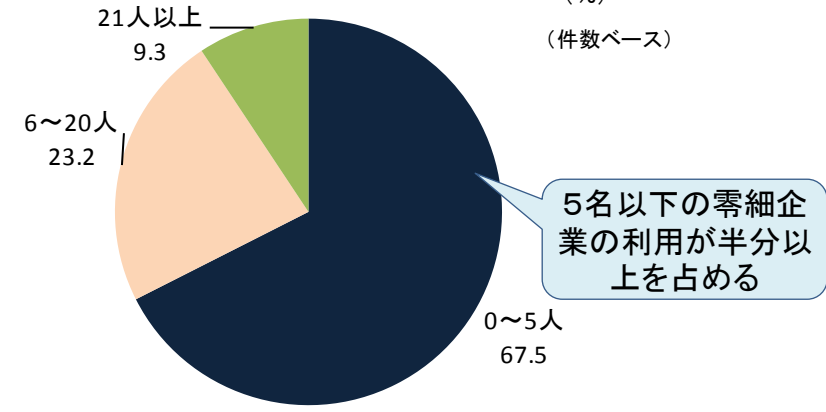
主要資金別新規融資実績(金額)



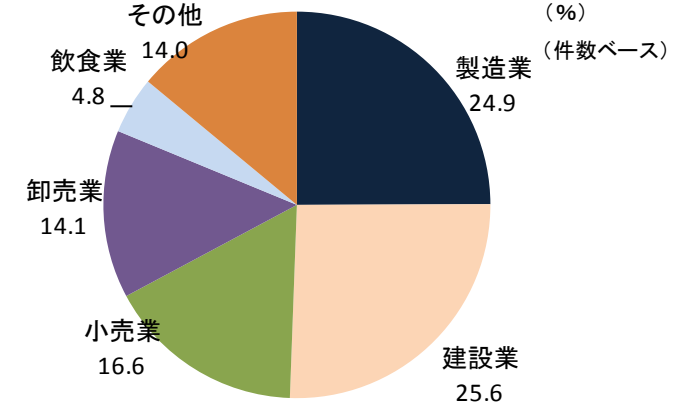
セーフティネット5号保証承諾実績(H25.8月末)



県制度融資 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



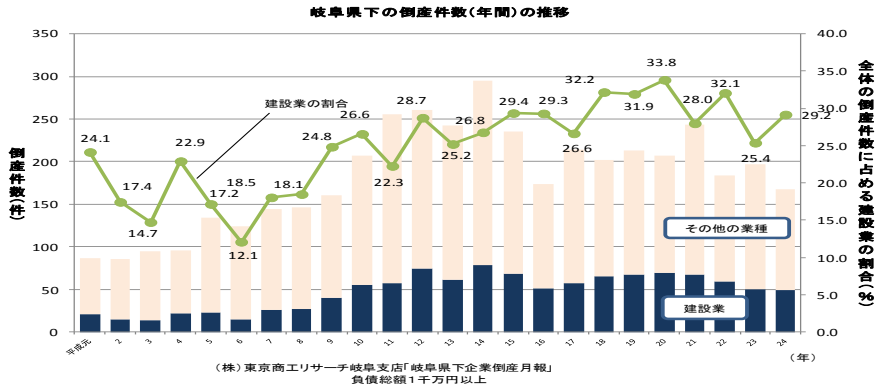
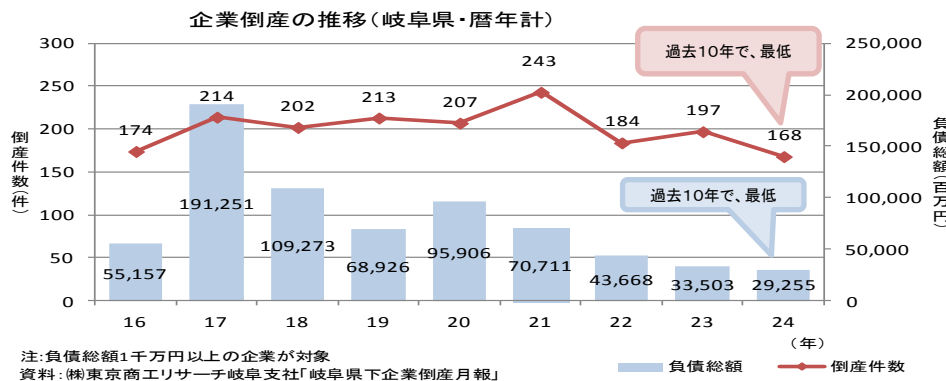
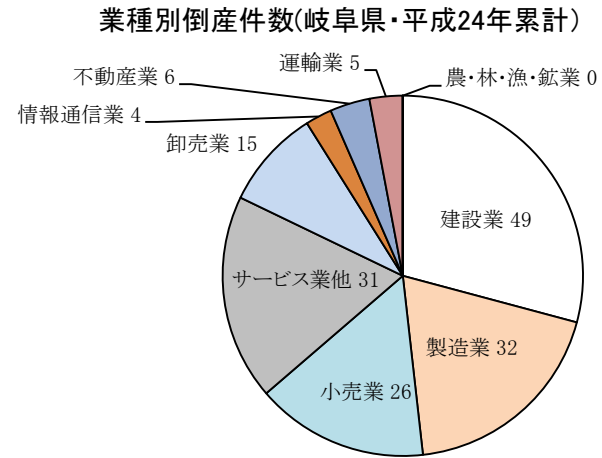
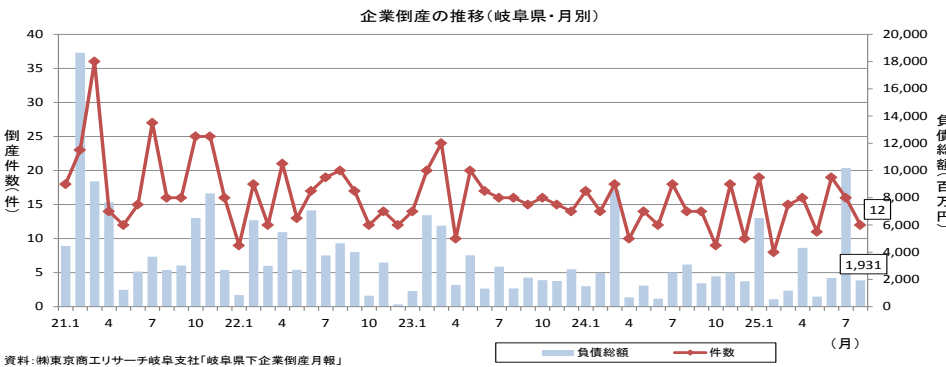
特別経済対策資金 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



# 倒産

- 平成25年8月の倒産件数は前年同月から2件減少の12件となった。
- 平成24年の倒産件数は168件となり、前年から29件減少。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



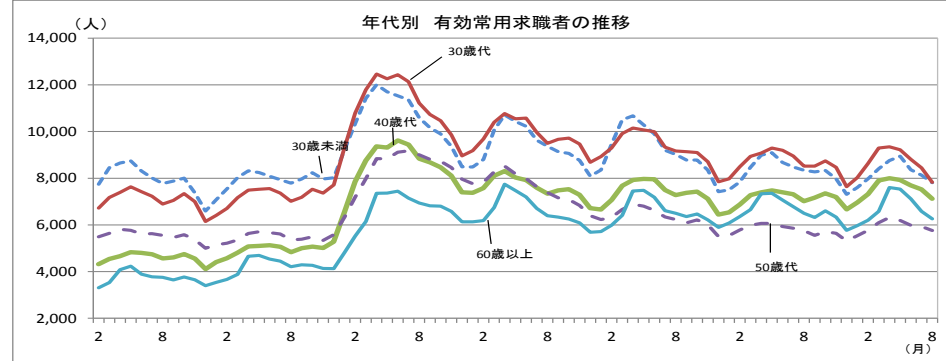
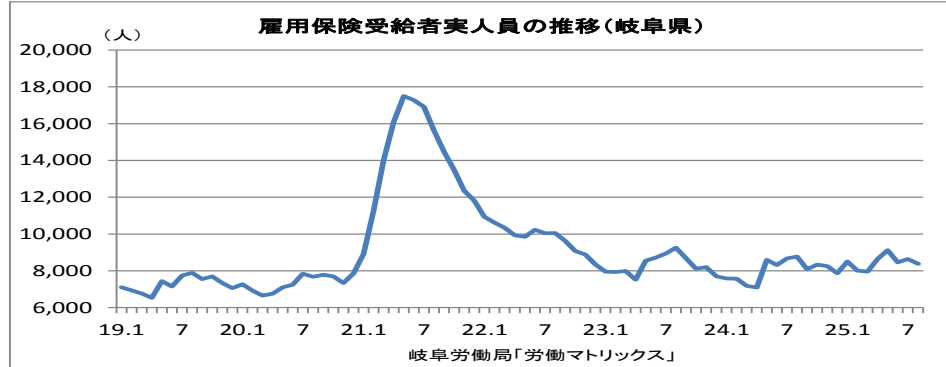
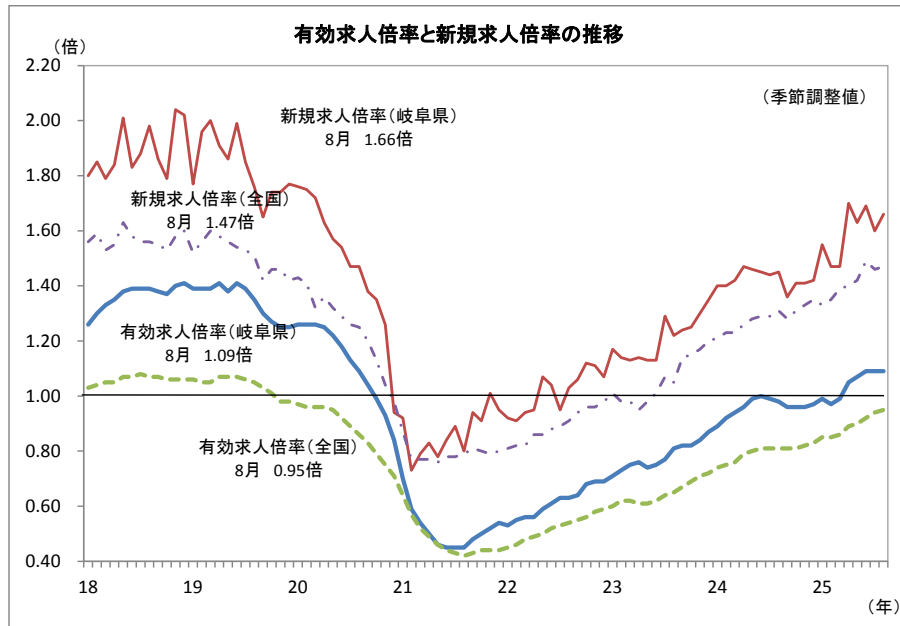
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆8月の県内倒産件数は12件、負債総額は19億3100万円となった。そのうち、負債総額が10億円を超える大型倒産はなく、1億円未満の倒産が過半数を占めた。
- ◆政権交代後は、経済政策効果への期待感から倒産動向も平穏となり、円安で輸出型産業である大手企業を主体に業績は回復し景気は緩やかに持ち直している。しかし、長引く消費不振が改善されない中で、近時円安を背景とした材料並びに燃料高騰に加えて、電気料金の値上げは中小零細企業の収益改善が進まない要因になっており、いまだ景気回復感を実感出来ない事業環境が続いている。

# 雇用

○8月の有効求人倍率は1.09倍と前月と同値。また、新規求人倍率は1.66倍と前月より0.06ポイント上昇。

○8月の雇用保険受給者人員は8,382人と前年同月と比べて4.39%減少した。



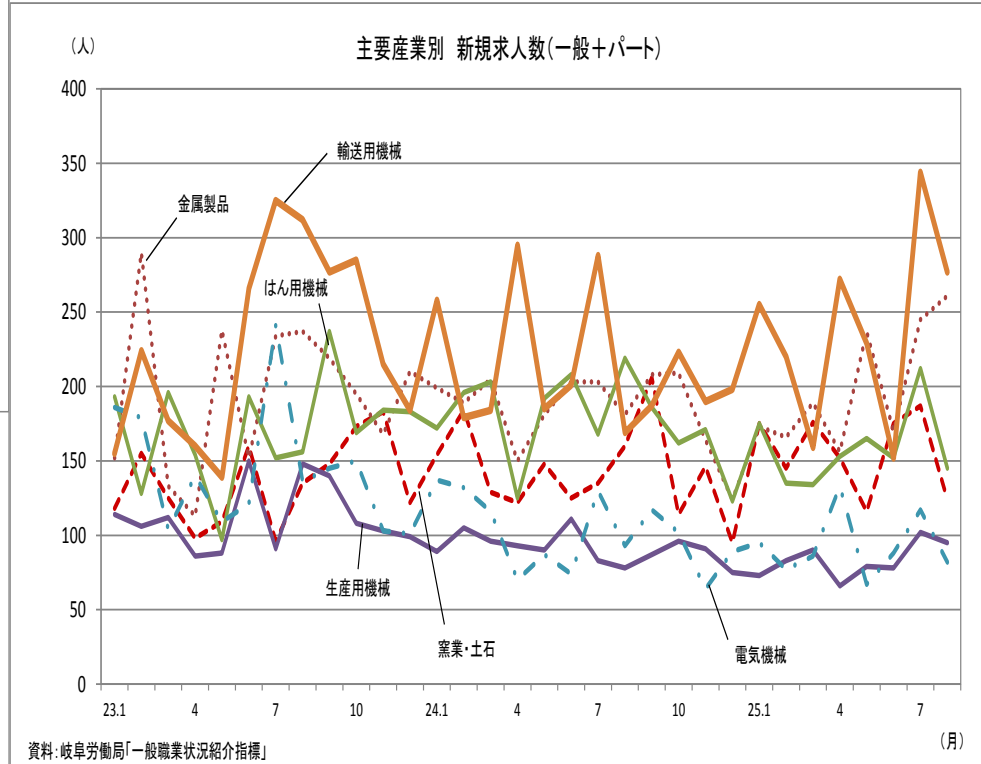
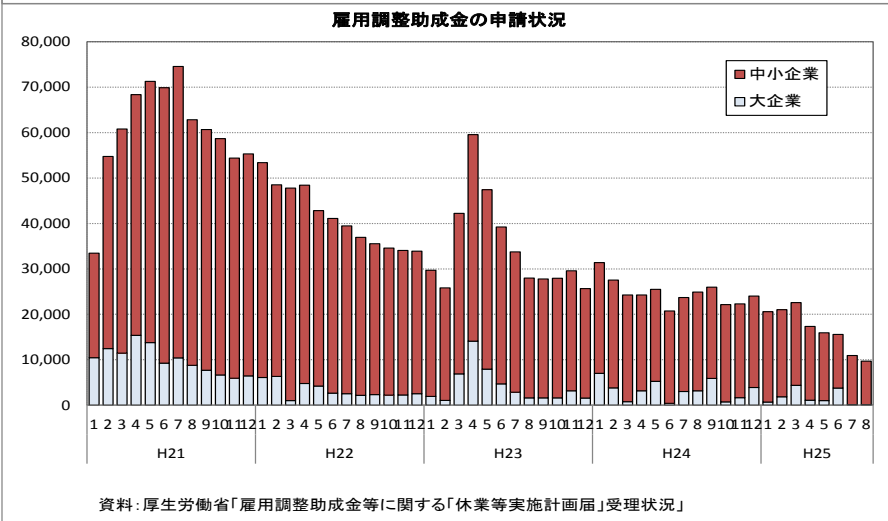
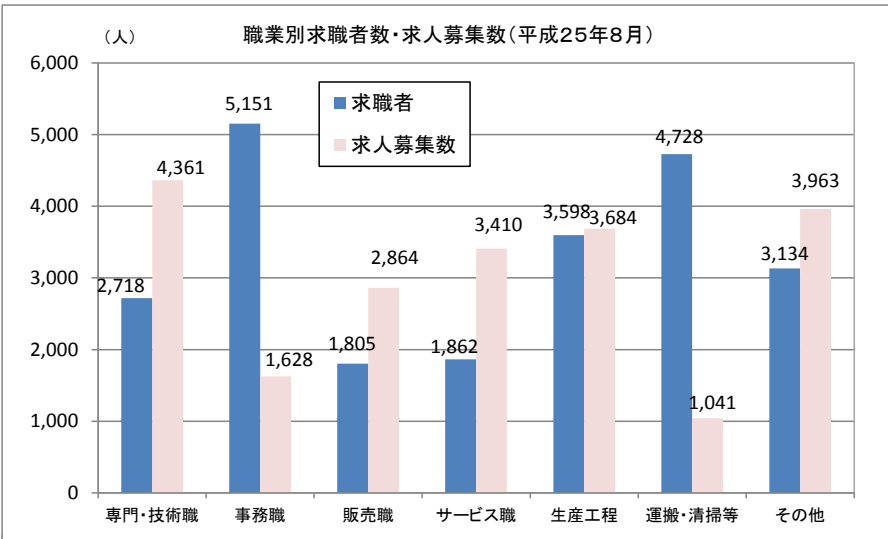
## 現場の動き

- ◆ベストマッチな人材確保に苦戦しており、経験がある人材を希望するが、なかなか確保できない。(食品製造)
- ◆電子技術のキャリアは募集しているものの集まっていない。
- ◆7月以降正社員、人材派遣等の採用が厳しくなった。
- ◆10月に中途採用で期間工1名の採用を予定している。(以上、輸送用機械)
- ◆3月に派遣社員を5名増員したが、さらに数名増員した。(非鉄金属)
- ◆正社員1名、契約社員1名、派遣社員2名を雇用したが、未だ人材は不足している感がある。(プラスチック)
- ◆人員については、業務多忙により、増員を検討中。(木工)
- ◆募集経緯を見てみると、産休代替での依頼が多かった春先に比べ、増員もしくは社員の退職・異動の補充としての依頼が約半数を占める。(人材派遣会社)



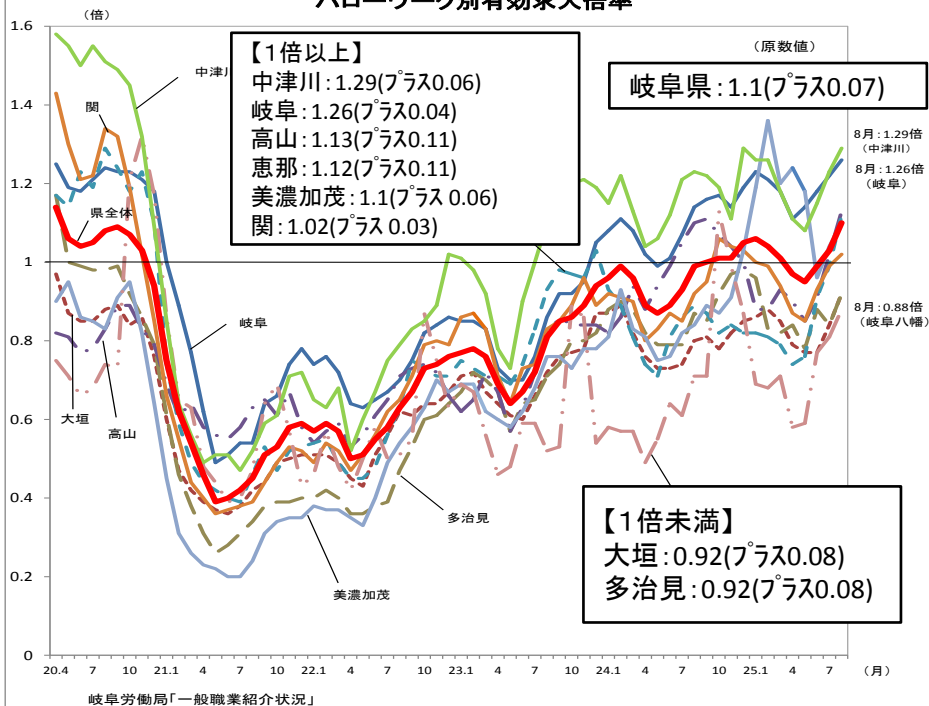
# 雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は、金属製品で増加したものの、輸送用機械、はん用機械等の産業で減少した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したが現在は減少。



# 雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



## <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数は横ばい。

## <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。

## <ハローワーク関>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

## <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は減少しているが、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。
- ◆来所者数は増加。

## <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数は増加。

## <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

## <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少。

## 【ソニーEMCS美濃加茂サイト関連】

- 従業者数  
 平成24年10月末: 2,160人(外国人835人)  
 平成25年3月末: 0人
- ハローワーク窓口の状況(9月25日現在)  
 求職者数 379人(うち 外国人 136人)

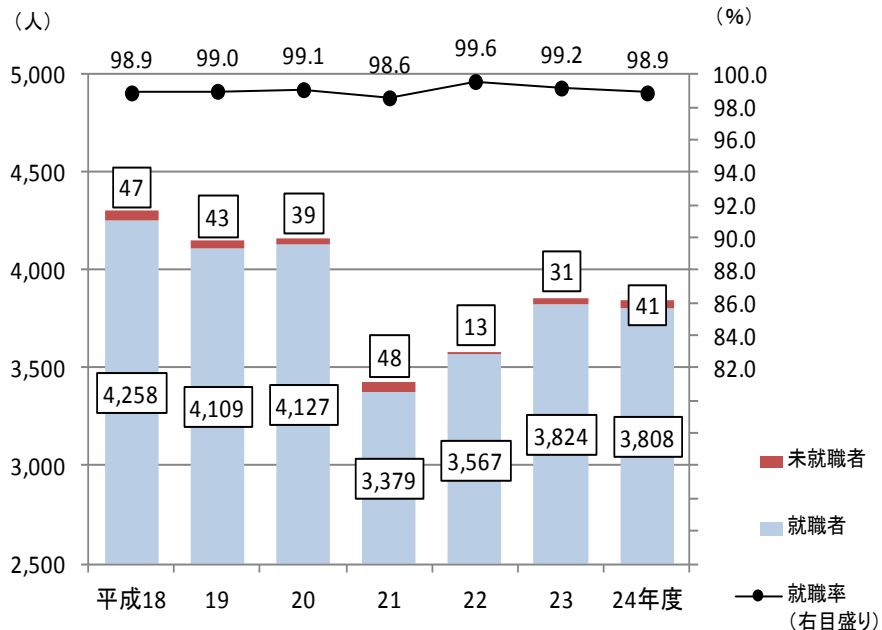
## <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

# 雇 用(高校新卒者の就職)

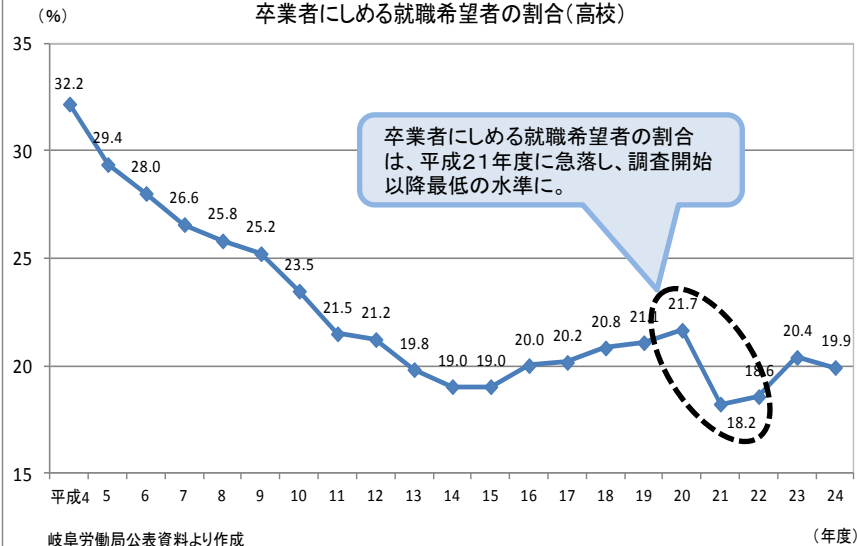
○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



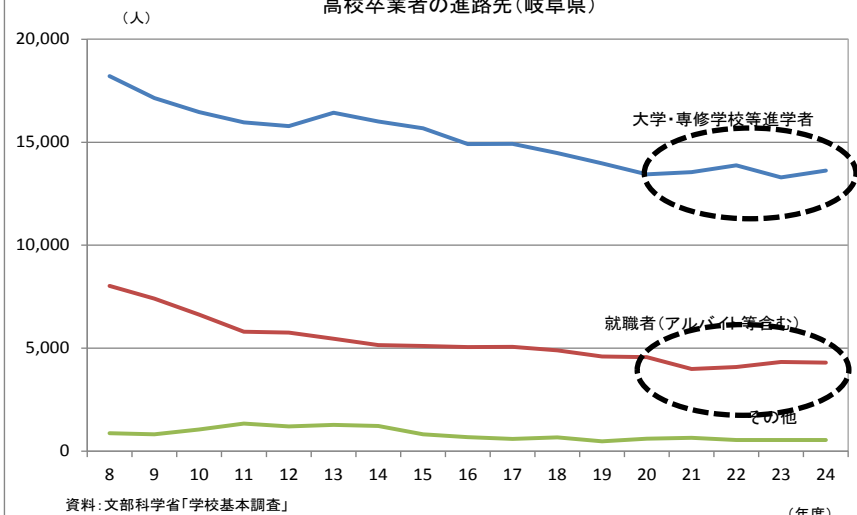
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



岐阜労働局公表資料より作成

高校卒業者の進路先(岐阜県)



資料: 文部科学省「学校基本調査」

## 現場の動き(求人状況)

<ハローワーク岐阜、大垣、高山、関、美濃加茂、中津川>

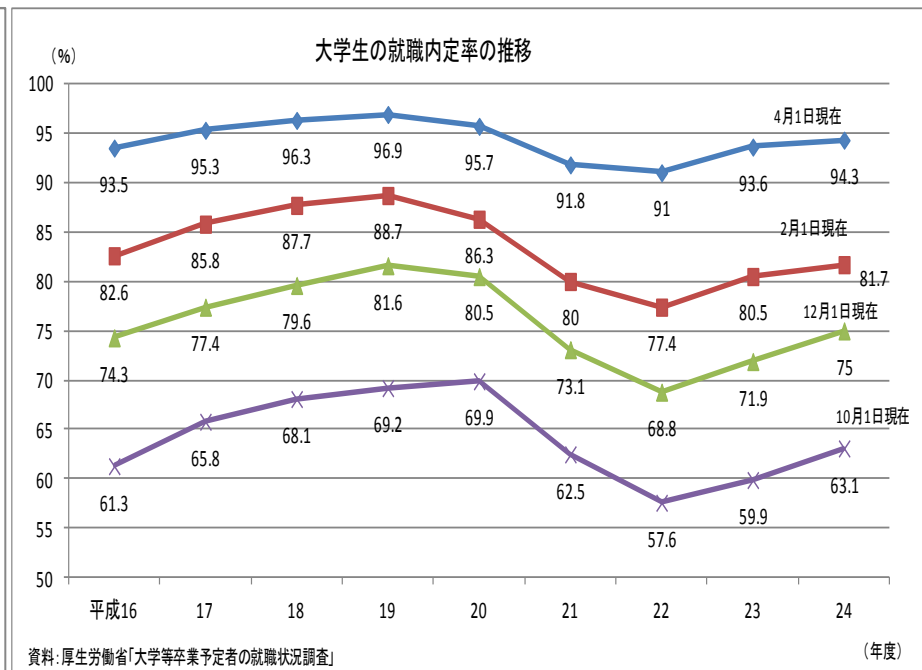
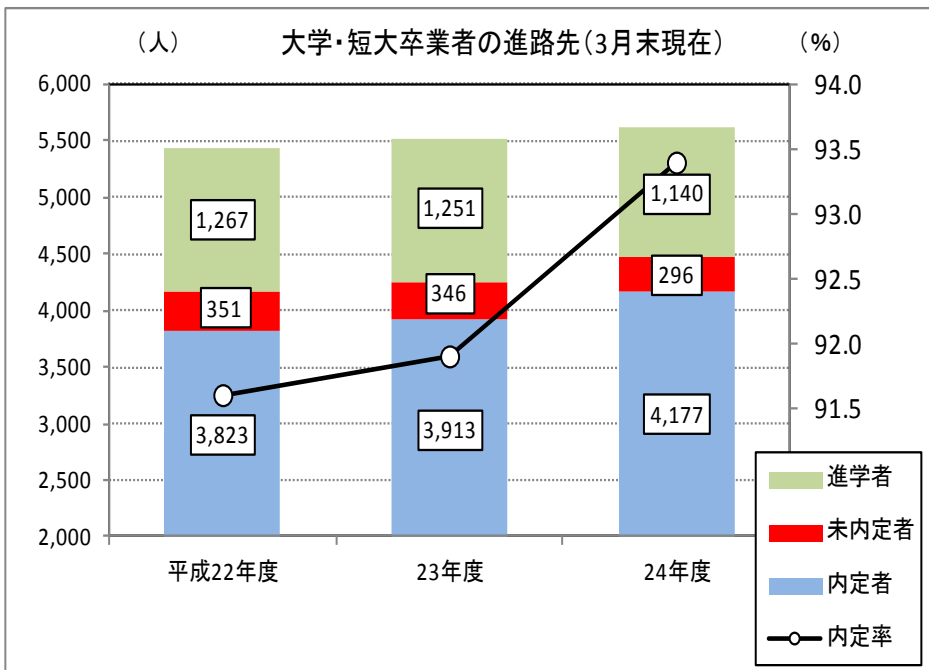
◆高校卒業予定者の求人が増加。

<ハローワーク多治見、恵那>

◆高校卒業予定者の求人が減少。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 平成24年度の卒業生については、前年度より内定率が改善。



## 現場の動き

### 【岐阜県内の主な大学】

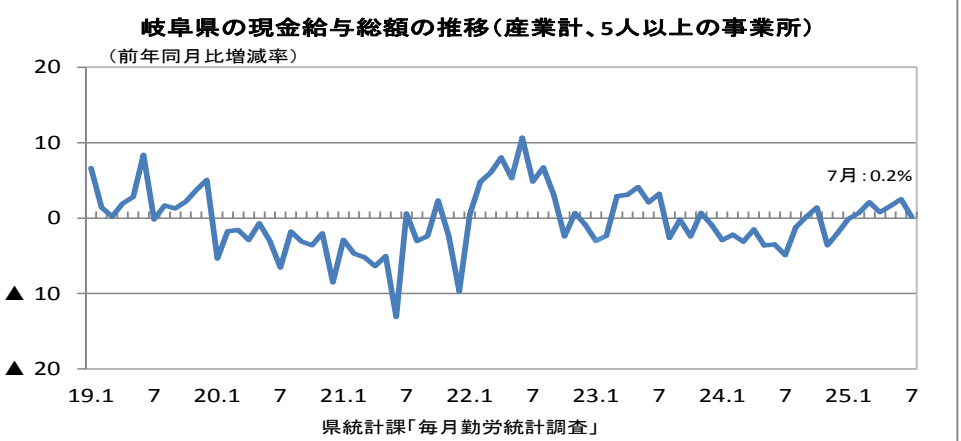
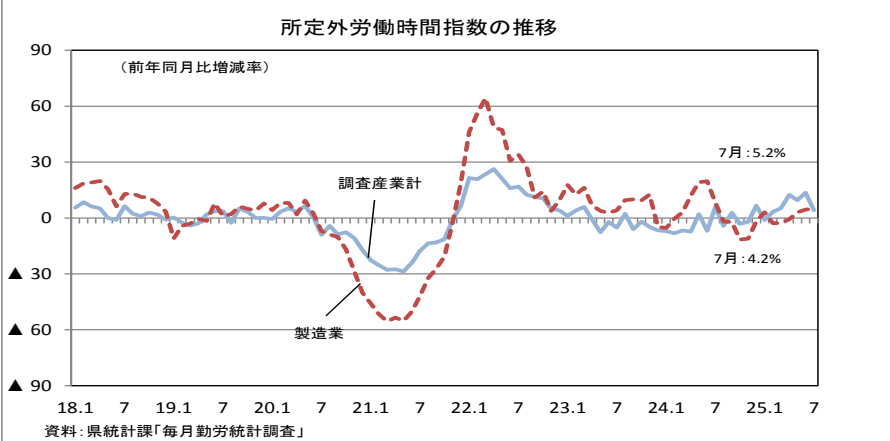
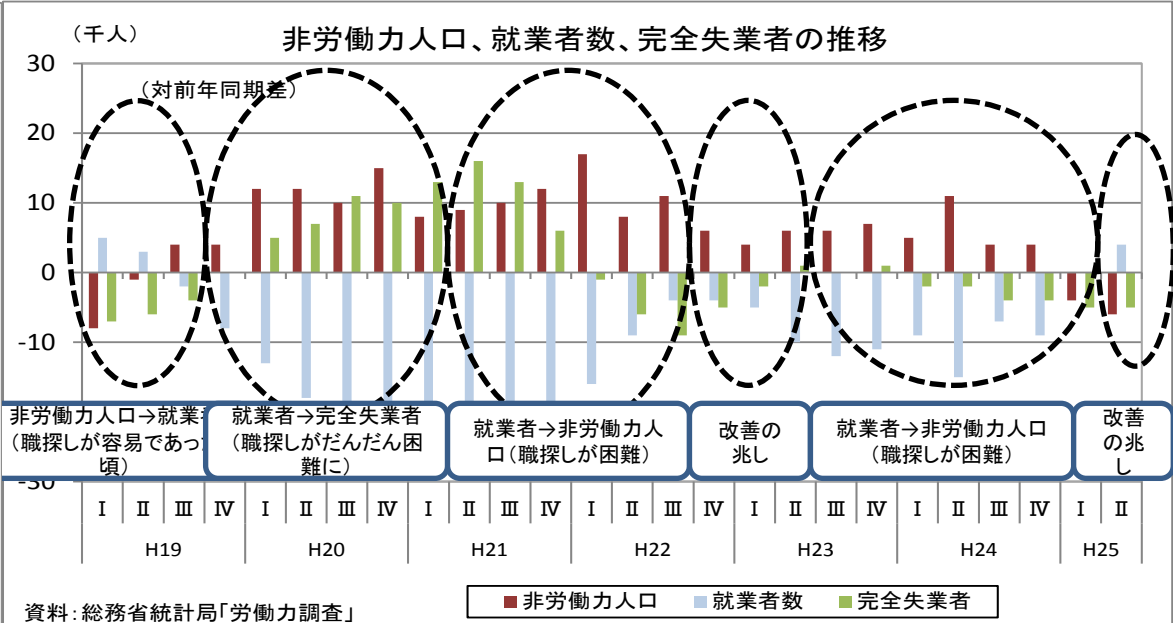
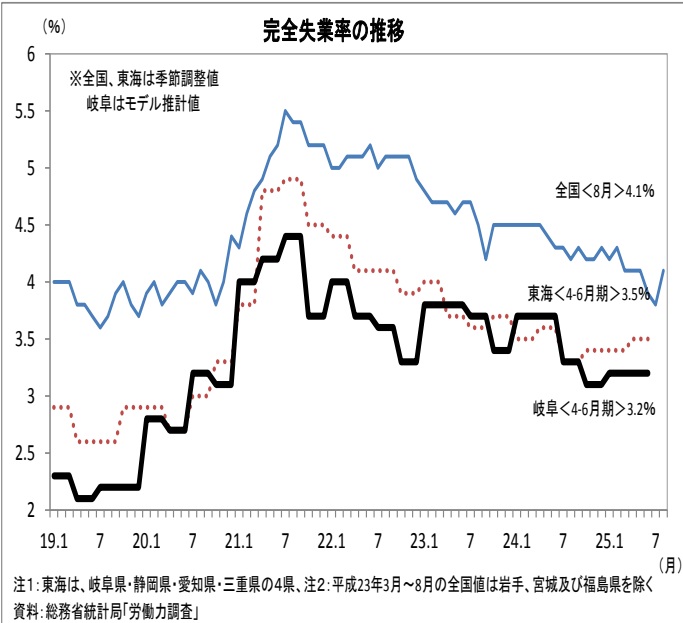
- ・2014年卒の内定率は学部生で45%前後で夏休み前と状況変わらず。
- ・2014年卒の内定状況として38%程で、やっと4割が見えてきた状況(学生の報告ベース)。
- ・2014年卒の内定状況として45%で、昨年度より4%程アップ。

### 【愛知県内の主な大学】

- ・2014年卒の内定状況は9月中旬の時点で60%を超え、昨年度よりアップしている。
- ・2014年卒の内定状況として9/20の時点で50%(学生報告ベース)の状況。
- ・2014年卒の内定状況は、9月最終週の時点で40%となり、昨年比2%程の下回っている状況。

# 雇 用(完全失業率)

○平成25年第Ⅱ四半期の完全失業率は3.2%と前期比で横ばい。  
 ○平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。その後再び厳しい状況となったが、直近では改善する兆しがみられる。



## <経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業全体では、円安により原材料価格の上昇が生じているものの、輸送機械関連を中心に受注や生産が増加しており収益が改善している。  
生産用機械においては、円安により国内調達に切り替える企業が出ていることから国内取引が回復傾向にある。
- 直近の円安の動きについては、輸出を主とする企業の売り上げが増加する一方で、原材料価格の上昇により製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工で明るい声が聞こえたが、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売について、衣料品は残暑により秋物の売り上げが今ひとつであったが、食料品は引き続き順調であった。
- 観光は、3連休が2週にわたり続いたことから総じて前年をやや上回る水準を確保している模様。インバウンドは台湾やアセアンなどアジアで引き続き好調な動きが見られる。
- 雇用面では、生産量の増加により業務量が増えたため雇用を増やす企業が出始めている。雇用にあたっては専門職や即戦力の人材を求めているが、採用に苦慮している企業が多い。
- 企業の資金繰りは、横ばい状態が続いており、新規借入れ需要は依然少ない。